ゆめここ通信

２０２１年１０月　第５号

地域支援センター
「ゆめここ」

学習指導要領では、「知識及び技能」「思考力、判断力、表現力等」「学びに向かう力、人間性等」という資質・能力の三つの柱に基づいて、各教科等の目標や内容が整理されています。本校においても、校内研修を中心としながら、資質・能力の三つの柱に沿って各教科の単元や本時の指導目標を立て、授業実践に取り組んでいます。今回は、資質・能力の三つの柱に基づいた単元の指導目標の立て方や日常的な取り組みの例について紹介します。

各教科の指導目標の設定について

学習指導要領においては資質・能力の三つの柱に基づく構造化が行われたところであり、基本的には、学習指導要領に示す各教科等の「２　各段階の目標及び内容」の「（２）内容」において、「内容のまとまり」ごとに育成を目指す資質・能力が示されている。このため、「（２）内容」の記載はそのまま学習指導の目標となりうるものである。

『文部科学省　令和２年４月特別支援学校小学部・中学部学習評価参考資料』より

☆　これらのことから、学習指導要領を活用すれば、指導目標は簡単に立てることができます。本校で作成している「学びの履歴」や「年間指導計画」をもとに、学習指導要領の各教科の「（２）内容」から選択してその内容を記入し、文末を「～できる。」に替えるだけになります。「学びに向かう力・人間性等」の指導目標については、文末を「～しようとする。」と記入します。

「指導目標」設定の具体的な手続き

小学部　体育科２段階の例

『特別支援学校学習指導要領解説　各教科等編　小学部体育科２段階の目標と（２）内容』より

E　ボールを使った運動やゲーム
ボールを使った運動やゲームについて，次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア　教師の支援を受けながら，楽しくボールを使った基本的な運動やゲー ムをすること。
イ　ボールを使った基本的な運動やゲームに慣れ，その楽しさや感じたことを表現すること。
ウ　簡単なきまりを守り，友達とともに安全に楽しく，ボールを使った基本的な運動やゲームをしようとすること。

『特別支援学校学習指導要領解説　各教科等編　小学部体育科２段階「（２）内容」解説文』より一部抜粋

「ボールを使った基本的な運動」
・つく、転がす、投げる、当てる、捕る、打つ、蹴る、止めるなどの簡単なボール操作をすること
「ボールを使ったゲーム」
・ものやマークなどの的に向かってボール投げたり蹴ったりする的当てのゲーム

※　「（２）内容」の**アが「知識及び技能」**、**イが「思考力、判断力、表現力等」**、**ウが「学びに向かう力、人間性等」**の指導目標となります。教科によって、学習指導要領での表記の仕方や目標の順番が異なります。

※　上記の「（２）内容」をそのまま記入、もしくは学習指導要領の「（２）内容」解説文を参考にして、より具体的な指導目標にしていきます。（裏面、単元の指導目標を参照）

単元の指導目標と子供の学びの姿

小学部体育科　単元名：「ティーボール～ゲームをしよう～」

単元の指導目標の例

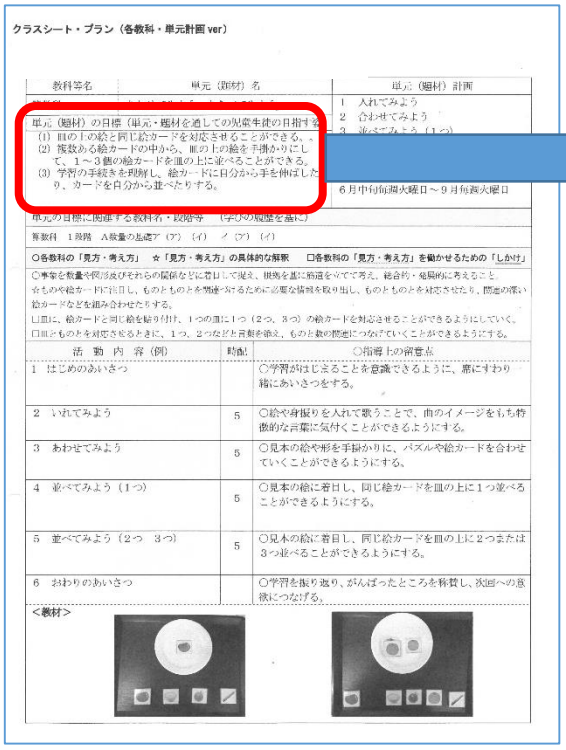
知識及び技能	思考力・判断力・表現力等	学びに向かう力、人間性等
○　教師と一緒にいろいろなボールを打つ、投げる、転がす、捕るなどの動きをすることができる。	○　ボールを使った運動に慣れ、ボールをよく見て打ったり捕ったりすることの楽しさを表現することができる。	○　簡単なきまりを守り、教師や友達と一緒にボールを打ったり、捕ったりしようとする。

バットの持ち方やボールの打ち方を覚え、正確にボールを打とうとしている姿。

集中した表情でボールをよくて見て、力一杯バットを振り抜いてボールを打っている姿。

ボールを打ったら走り、ベルを鳴らすというルールを覚え、自分から取り組んでいる姿。

資質・能力の三つの柱に基づいた指導目標と３観点の評価



クラスシート・プラン（各教科・単元計画 ver）

教科等名	単元（題材）名	単元（題材）計画
[illegible]	[illegible]	1　入れてみよう 2　合わせてみよう 3　並べてみよう（1つ）

単元（題材）の目標（単元・題材を通しての児童生徒の目指す姿）

(1) 皿の上の絵と同じ絵カードを対応させることができる。

(2) 複数ある絵カードの中から、皿の上の絵を手掛かりにして、1～3枚の絵カードを皿の上に並べることができる。

(3) 学習の手続きを理解し、絵カードに自分から手を伸ばしたり、カードを自分から並べたりする。

6月中旬毎週火曜日～9月毎週火曜日

単元の目標に関連する教科名・段階等　（学びの履歴を基に）

算数科　1段階　A数量の基礎ア（ア）（イ）　イ（ア）（イ）

○各教科の「見方・考え方」　☆「見方・考え方」の具体的な解釈　□各教科の「見方・考え方」を働かせるための「しかけ」

○事象を数量や図形及びそれらの関係などに着目して捉え、根拠を基に筋道を立てて考え、統合的・発展的に考えること。

☆ものや絵カードに注目し、ものとものとを関連づけるために必要な情報を取り出し、ものとものとを対応させたり、間違の探い絵カードなどを組み合わせたりする。

□皿に、絵カードと同じ絵を貼り付け、1つの皿に1つ（2つ、3つ）の絵カードを対応させることができるようにしていく。

□皿とものとを対応させるときに、1つ、2つなどと言葉を添え、ものと数の関連につなげていくことができるようにする。

活動内容（例）	時配	○指導上の留意点
1　はじめのあいさつ		○学習がはじまることを意識できるように、席にすわり緒にあいさつをする。
2　いれてみよう	5	○絵や身振りを入れて歌うことで、曲のイメージをもち特徴的な言葉に気付くことができるようにする。
3　あわせてみよう	5	○見本の絵や形を手掛かりに、パズルや絵カードを合わせていくことができるようにする。
4　並べてみよう（1つ）	5	○見本の絵に着目し、同じ絵カードを皿の上に1つ並べることができるようにする。
5　並べてみよう（2つ　3つ）	5	○見本の絵に着目し、同じ絵カードを皿の上に2つまたは3つ並べることができるようにする。
6　おわりのあいさつ		○学習を振り返り、がんばったところを称賛し、次回への意欲につなげる。

<教材>

研修部で作成している**「クラスシート・プラン」（単元計画version）**があります。グループ学習で取り組んでいる「体育」や「音楽」などの授業を中心に、こちらのシートを活用して、資質・能力の三つの柱で単元の指導目標を設定することで、グループの先生方で、３観点を意識した指導を行うことができます。もちろん、個人的に学級の授業で活用していくこともできます。

３観点の評価

資質・能力の三つの柱で単元の指導目標を設定することで、指導目標が達成されたかどうかを３観点で評価することができます。単元のまとまりごとに３観点の評価を行うことで、児童生徒の学びの実態把握や次時の授業改善に生かすこともできます。さらに、個別の指導計画や指導要録の評価にもつながっていきます。

指導目標を適切に設定することで、評価の視点も明確になってきます。校内研修の事後研究会で取り組んでいる視点も参考にしながら、日常的に行っている授業実践や評価にも生かしていくことができます。ぜひ、参考にしていただければと思います。